

英連邦戦死者墓地で第 24 回追悼礼拝開催される

8月4日、猛暑の中、横浜の英連邦軍戦死者墓地にて毎年恒例となった8月の追悼礼拝が開催されました。1995年、泰緬鉄道憲兵隊の通訳だった永瀬隆さん、国際基督教大学教授の齊藤和明先生、青山学院大学教授の雨宮剛教授の3人が提案され始まったこの式典も、永瀬さん、齊藤先生が他界され、雨宮先生のご参加も無い中、大勢の人々が今年も参加され、P研からは5人が出席しました。

また今年は晴海ふ頭に寄港中の英海軍揚陸艦 HMS ALBION (アルビオン) の乗組員100名程も参加し、特別な式となりました。この船は Royal Navy (海軍) と Royal Marine (海兵隊) の将兵が乗船し、各国を寄港する度にその地にある英連邦墓地を訪問しているそうです。

通常の式典の後、入口より彼ら100名程が軍楽隊を先頭に行進して入場、イギリス区で埋葬者に敬意を表し、祈りをささげ、献花となりました。その後各国の墓地を訪れ、献花。イギリス、カナダ、ニュージーランド、オランダの武官や大使館代表者、実行委員の皆さんと共にP研からも献花に参加しました。



追悼の辞を述べる関田寛雄牧師



イギリス区十字架の前に整列するアルビオン将兵



イギリス区で献花したP研笹本



カナダ・ニュージーランド区で献花するP研高田

最後まで墓地にたたずむ乗組員が一人いて、指さすので何かと思ったら、彼の祖父が捕虜として埋葬されている、これが彼の墓、と考え深げ。函館で死亡と P 研の記録に出ていました。彼自身は祖父に会ったことは無いが、家族の間では彼の思い出が伝わっているそうです。何と、彼についてもっと調べる為に P 研のサイトを頼りにしたとのこと。見えぬところでも遺族の助けになっていたと聞き、P 研としては喜びと励みになりました。

(田村佳子)